



第 26 号
平成 28 年 1 月
野木小学校同窓会編集部



ご挨拶
第53回卒(昭和37年)
同窓会長(下野木) 倉谷 廣雄

会員の皆様、お変わりなく
益々ご清栄にてご活躍のこと
とお慶び申し上げます。

この度、常任理事会で承認
され、大任である会長の職を
お引き受けることになりました
下野木の倉谷廣雄(六十六
歳)です。器ではございませ
んが、常任理事、集落担当理事、
野木小学校先生方のご協力を
いただき、また会員皆様から
ご指導、ご鞭撻をたまわり微
力ですが頑張る所存でござい
ます。

さて、環境整備が進み昔の
小川、農道などは面影がなく
なってきましたが、野木小

学校の背後の野木山、相杜社
社(杉山) 一言神社(中野木)
箱ヶ岳(堤) などには故郷を
忍ぶ景観が残っています。

減少打開策を若狭町、各地区、
各集落において取り組んでお
りませんが、様々な問題があり前
に進んでいないのが現状です。
隣接の小浜市においては、小
学校の統合が行われており、
遠敷小、国富小、松永小、宮川
小が一枚になると聞いており
ます。若狭町においても今後
避けられない課題となってい
ます。

先人達が築いてくれましたた



小学校の椅子
野木小学校長 檜鼻 幹雄

野木小学校同窓会を継承して
いくためにも、野木地区民の
人口の増加と野木小学校の教
育施設の充実を図り、魅力あ
る学校を作っていくかなければ
ならないと考えています。会

員皆様の英知をよろしく願
い申し上げます。
最後になりましたが、会員
相互の親睦を図ると共に会員
ご家族様のご健勝を祈念し挨拶
とさせていただきます。

校長の檜鼻幹雄でございます。
今年度四月に着任いたしました。
地域づくりに一生懸命になっ
ておられる野木地区での仕事
にたいへんやりがいを感じて
おります。

地域に貢献できる学校をめ
ざし、同窓会、地域、保護者
の皆様方のお力添えをいただ
きながら、子供たちを育てる
よう尽力いたします。ご指導、
ご協力をいただきますようよ
ろしくお願い申し上げます。

それが野木小学校です。地域
の方から以下のような話を

聞きました。「子供たちが
楽しそうに歌いながら帰って
くるのです。こんな微笑まし
い光景のある地域や学校、他
にはないですよ。」と。また、
ある方からは「今日はとても
いいことがあったのです。朝、
ジョギングをしていると遠く
の方から大きな声で『おはよ
うございます。』という声が
聞こえてくる。声の方を見ると、
野木小学校の子供たちが、集
団登校の黄色の旗を振って、
『おはようございます。』と
一生懸命に応援してくれてい
るのです。本当に嬉しかった。
元気がもたらえた。」という話

をお聞きました。同窓会、
育友会の会議はいつも和気あ
いあいとし、打ち解けた中で
話し合いが進められています。
今年の野木小学校の全校児
童数は八十名です。大規模な
学校であろうと小規模な学校
であろうと、そこで培われる
子どもたちの気概や自信は決
して変わるものではありません。
「私が卒業した学校は、野
木小学校です。」と大人にな
ってからも誇りをもって語れ
る子供たちを育てましょう。」
というのが、野木小学校職員
一同の願いです。子供たちの
誇りとは、学校で培われる自
信や気概にほかなりませんし、
子供たちが学校で経験した全
てのことから生まれます。そ
して、それは、保護者の皆様、
地域の方々、学校の職員が一
緒になってこそつくっていけ
るものだと思います。そして、
将来、どのような形であれ地
域のために貢献できる人に育
ってほしいと願っています。

学校もまた、地域に支えられ
ながら地域のために貢献する
ことを目標に努力してまいり

たいと思います。
最後に、岸田衿子さんの
「小学校の椅子」という詩を
紹介します。

ながいながい一生の間に
みじかいまじかいまに
だれでも いちどは
ここへ戻ってくる
みんながいなくなつた教室
さわるとつめたい 木の椅子に



旧職員からの便り

感謝!

(平成元年度～8年度
平成23年度～25年度 職員)

遠山 証子

野木小に初めて勤務させて
いただくことになったのは、
平成元年四月からでした。今
からもう二十七年前のことに
なります。私は結婚と共に、
若狭町に異動となったので野
木小学校のことが今でも忘れ
られません。

当時の野木小学校の先生方
の半数は、私の出身地嶺北の方
だったのでびっくりしました。
嶺南に慣れない私は、言葉の
アクセントを聞いて安心した

ものでした。嶺南の先生方の
多くは、遠山家のことをよく
ご存じで、安心するというよ
り「しっかりしなければ。」
という異様な緊張感をもつた
ことを今でも覚えています。
野木地区の地域の方からも、
「河内の遠山さんか・・・」
とよく言われ、自分を見失い
そうなくらい緊張しながらの
スタートでした。

その当時は、剣道の大会に
出ていたので、勤務が終わる
とグラウンドを走ったり、高学
年と短距離走を競争したりと、
広いグラウンドをトレーニング
に使わせていただきました。
また、子どもたちと剣道クラ
ブを作り一緒に、礼の仕方や
素振りをしたこともありまし
た。子どもたちとよく遊び、無
我夢中の毎日だったように思
います。懐かしい色々な授業
のことも思い出されます。丸
海のすり身を鉄の棒に巻き付
けて、理科室で七輪を使って
焼きちくわを作ったり、大豆
を育て石臼で挽いて黄な粉餅
を作ったりしました。また、
おばあさんたちに来ていただ

いて、毛糸を編んでアクリル
たわしを作りました。各洗面
所に置き、みんなに喜ばれま
した。
今、こうやって野木小で過
ごしたことを振り返ってみると、
どれも楽しい思い出です。そ
して、たくさんの経験や体験
の陰には、保護者の皆さんや
地域の方々の理解や協力があ
ったからだ、と感謝しており
ます。

一回目の野木小での勤務は、
八年間でした。私自身三人の
子どもに恵まれました。その
度に産前産後休暇、育児休暇
もしっかりとらせていただき
ました。保護者の方のご理解
ご協力のおかげで、その三人
の息子も成人を迎えました。

育児休暇明けの体育館の挨拶
では、「みんなにプレゼント
を持ってきました。」と紙袋を
出すと興味津々・・・、海苔
の瓶に河内で捕まえたマムシ
を入れて見せたこともありま
した。毒蛇を
しっかり見て
観察すること
の大切さを知



ってほしかったのですが・・・。
私はマムシが大の苦手だった
ので、びくびくしながら運転
したことを覚えています。

平成二十三年、再び野木小
に異動させていただきました。三年
間勤務させていただきました。
最初勤務していた時に教え子
だった子が親となり、保護者
だった方が、祖父母になつて
いました。年月の流れの早さ
を感じるとともに、懐かしい
野木地区の皆さんに再会でき
たことが大きな喜びです。

勤務期間中に耐震工事が始
まりました。仮設への引つ越
しから、完成までを見届ける
ことができ、そこに携わり少
しお手伝いできたかなと思
っています。

野木小勤務十一年間、本当
に長い間お世話になりました。
毎日、河内から通った道のり
は少し遠かったけど、毎日が
楽しかったです。野木小での
思い出を胸に、残された教員
生活を、楽しく元気で、一日
一日を大切に生きていきたい
と思います。ありがとうございました。

旧職員からの便り

戻りたい「あの時」

(平成17年度〜22年度 職員)

豊田 泰寿

「こんな良いところ他にはないと思うよ。」在職中によく言われた言葉でした。「本当かな？」と、そのころは少し思っていました。しかし、野木小学校から異動して5年、

まず、何よりも子どもたちが素晴らしかったです。素直で、



まじめで、何事にも一生懸命でした。人数が少なかつたこともあり、学級が家族みたいでした。毎日が笑いに包まれた活気のある教室でした。とても広いグラウンドで一輪車の練習をがんばりました。学級対抗の「カラオケ大会」という行事(児童会)もありました。もう、こんな行事はなくなつたでしょうか。私がいた頃は、最も子どもたちが(いやそれ以上に担任が)

練習に本番にと燃えた行事でした。その当時の写真を見てみると楽しかつた思い出が昨日のようによみがえってきます。次に、地域の皆さんが素晴らしかつたです。いつも温かく協力的で、優しかつたです。体育大会や田植えに稲刈り、畑作業、駅伝、スキー教室など、何度助けたいいただいたか、本当に感謝しております。また、飲み会の席も、とても楽しかつたことを覚えています。今でも出会うと、思い出話に花が咲きます。

会員からの便り

思い出深い野木小学校

第50回卒(昭和34年)

中野木 正木 重雄



そして、周りの環境が素晴らしいので、静かで、自然に包まれていて、学校教育には最適の場所でした。山と川と田んぼにかこまれたのどかな風景は、とても癒やされました。今でも車で通る度に、よそ見運転をしてしまうほどです。

私は、今、小浜市の小学校で勤めています。いつでも、あの時に戻りたい気持ちでいっぱいです。子どもたちはどうしているかなあ…、皆さんはどうされているかなあ…。

今も、野木小学校の前を通ると六十年前の当時の校舎を思い出します。あの頃は、冬の凍った時には、雪が降り積もつた田んぼの上を中野木から小学校まで一直線に登校しました。当時はたくさんの雪が降り、またその雪が凍って小学生が乗つても「くだけない」ほど寒かつたのです。そして教員室も教室も薪のストーブでした。そのため焚き付けに一言神社で杉葉を集め、束にして学校へ運

また、校庭を見渡す位置に「二宮金次郎像」がありました。今はいらつしやらないですが、恩師がよく口にされていた言葉に「報徳思想(社会に役立てば、あとで必ず自分に返ってくる)」というものがありました。

二宮尊徳は農家の長男でしたが、台風で実家や田畑を失い、また両親とも病死したため十六歳で叔父の家にあずけられました。尊徳は実家を元とお

りにするため、せいたくをせ
ずに毎日一生懸命働き、寝る
時間も惜しんで勉強しました。
その甲斐あつて実家は元どお
りとなりました。

当時の時代背景や野木地域
の生活にも重なる部分が多く
感じられ、今でも「たきぎを
背負つて本を読みながら歩く
姿」が思い出されます。

さて、今まで何回となく同
窓会を開いておりますが、七
年前にみんなが参加できるよ
う日本の中心、岐阜で開きま
した。同級生というのは上も
下もない、共に学び、

共に遊び、共に故郷
を思い出すかけがえ
のない存在です。残
念なことには亡くなつ
た同級生もいらつし
やいますし、もう七
十歳ですので健康に

十分留意されて毎日を歩ん
でいこうと皆様に言っております。
そして、伝統のある小学校、
常に故郷を思い出すことが大
切だと思えます。次は平成二
十八年二月に開く予定です。
楽しみに毎日をごさしていき
ます。



二宮金次郎像



木造校舎と昭和40年頃の同窓生

会員からの便り

皆様の笑顔に感謝

第74回卒(昭和58年)

堤 田中泰和

私は、昭和五十二年四月か
ら六年間、野木小学校にお世
話になりました。真新しいラ
ンドセルが嬉しくて何度も教
科書と筆箱を出し入れたの
を懐かしく思い出します。

や人の模型でちよつと恐かつ
た理科室、暗幕があつた音楽
室では、有名な作曲家の写真
と目が合つたりして級友と脅
かし合いやイタズラの連続で
した。

しばらくして、少し小学校に
も慣れてきた頃「これから六
年も通うのか・・・」と憂鬱
になったことも今では大変懐
かしい思い出です。近所の先
輩に連れられ走りながらここ
の集落の児童より早く学校に
着いて授業開始まで遊んでい
ました。六年間過ごした間に

私の学年は、男九名女九名
の計十八名でした。当時はい
じめや仲間外れ等もなく、和
気藹々の学級でした。例え喧
嘩したとしても直ぐに仲直り
していました。こうした仲間
と一緒に過ごせたことを幸せ
に思っています。

県内で最初のステンレス製の
プールが完成し、夏休みには
よく泳ぎに行つたものです。
校舎に入れば、廊下の床のワ
ックスのニオイ。そして、

自身の卒業から
二十年余りで、我
が子二人が十四年
間野木小学校にお
世話になりました。
親になると不思議なもので、運動
会や発表会など我

「廊下は走らない」の文字。
ひんやりと少し薄暗く、標本

最後に野木地区の皆様、同
窓会会員の皆様、野木小学校



を忘れて応援してしまうもの
です。とは言うものの単身赴
任生活が続きなかなか行く機
会に恵まれませんでした。し
かし、あろうことか育友会会
長をすることになり、親の立場、
学校のこと、地域のこと、本
当にいろいろ勉強させていた
だきました。父親がいない間
でも我が子はすくすくと成長
するものです。そして保護者、
先生方、野木地区の皆様的心
暖まる「笑顔」がずっと私の
心に生き続けています。妻を
はじめ、家族への感謝は勿論
ですが、同窓会会員の皆様や
野木地区の皆様明るい笑顔は、
私に幸福をもたらす光になり
ました。

の子供たちに「ありがとう」と感謝申し上げます。これは、私が、未成熟な姿で生まれて来て、野木小学校での体験や地域の皆様とのふれあいを通して、人間的に成長出来たことへ感謝の思いです。

会員からの便り

今も昔も

第80回卒(昭和62年)

上野木 清水裕喜

四月から、娘がのほな保育園に通い始めました。私の住んでいる上野木からは車を走らせると二、三分のところ保育園はありますが、天気の良い日には、車ではなく自転車に乗り替え、普通つた通学路を通って迎えに出ることがあります。その道中、玉置の家並みは三十年前とは少し景色も変わっていて、自分の体も大きくなったせいか、何もかもが小さく感じられてしまいます。ただそんな中に、今も昔も変わらず同じ姿を見せ



昭和62年度 野木小学校卒業記念 昭和63年3月18日

てくれるものがありました。下校途中にこつそりとつまん

で食べていた真つ赤な実のなる茱萸(ぐみ)の木、草や木の葉を流しながら帰った村を流れるきれいな小川、秋になるとたくさんのお米(い)を落としてくれる大きな栗の木・・・子どもの頃、当たり前のように目にしてきたこれらの自然は、今も昔も変わることなく、その面影を残してくれていました。このような昔懐かしい自然を、体全体で感じながら自転車を走らせていると、ふと気がつけば保育園はすぐ目の前に・・・あつという間のひとときというわけです。

時が経っても、今も昔も変わらない、これらの自然。これと同じように今も昔も変わることはない掛け替えのないものが、ここにあると思っております。それは、野木の地に住む子どもたちの明るい「笑顔」、そして素直な「心」です。世の中が変わり、子どもたちを取り巻く環境も大きく変化してきましたが、子どもたちが根本から持っている豊かな感性や可能性は、時代が移っていくとも決して変わるこ

とのない大切な「宝物」なのではないでしょうか。地域の宝である子どもたちが、「自分らしさ」を生き生きと表現し、身も心も大きく成長していけるよう、地域の皆で子どもたちを優しく見守り、包み、そして大切に育てていければと思います。野木の地が、いつまでも子どもたちの笑顔と笑い声で溢れる、心温たまる「ふる里」であってほしい

会員からの便り

小学校時代の思い出

第83回卒(平成4年)

武生 清水祥之

と心より願っています。最後に野木っ子へ・・・好きなこと、興味のあること、がんばってみたいこと・・・何でも良いと思います。何かに夢中になり、一生懸命にやり遂げたと感じる、その後にある「達成感」や「満足感」。ぜひみんなに味わってもらいたいです。

輝け！野木っ子！！

原稿の依頼を頂きまして、いろいろ思い出しておりますが、なかなか書けることが思いつかずに昔好きでよく行った魚釣りについて書いてみようと思えます。

とにかく近くに川があるので、学校帰り、休みの日などよく魚釣りに行きました。最初は

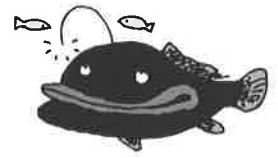
自作の竹の竿で、餌は土を掘ってミミズをとり、それを袋に入れて、竿とバケツを持って自転車で、小学校前の川へ向かい、最初は橋の下から釣っていたのですが、魚に見つからないように橋の上から釣る方がよく釣れる事を覚えたり、餌に近づくと魚を見ながら、浮



きと針の長さや針の大きさを
 どを変えたりしながらいろいろ
 の思索したように思われます。
 その頃、釣れた魚は、バケツ
 に入れて、自転車で水をこぼ
 さないように持ちながらよく
 恵懐公園の池に放していました。
 学年が上ると自転車で少
 し遠くまで行けるので、上野
 木や下野木あたりまで遠出を
 しまして釣りを楽しんだ記憶
 があります。上野木の橋の下
 にもたくさん魚がいたのですが、
 橋げたが低いので、よく竿や
 頭をぶつけたていたような記
 憶があります。

またその頃、下野木の川で
 は「すつぽん」が捕れるらしい。
 ということで、自転車で出か
 けて行き、何度か釣りをしま
 した。確かに、川も大きく、
 時々コイのような大きな魚も
 通り、「すつぽん」もいそうな
 気配がありました。こちら
 はいっこうに釣れなかったよ
 うな気がします。(餌がウイ
 ンナーとかちくわとかだった
 からなのかもしれません。)
 ただ、その頃は竿もリール
 付になつていて、大きな川で
 ただ遠くへ投げて飛ばせるだ
 けでも楽しかったのだと思ひ
 ます。一度、大雨のあと兼田
 の方へ釣りに行ってみると、
 にこった水の中で排水溝の下
 に何か見たこともない大きな
 黒い魚影がうごめき集まっ
 ています。針を入れてみると、
 すぐ釣れたのですが、今まで
 ない強い引きで、重くて上
 げられない事がありました。
 今だに、あの魚は「何だった
 のだろうか。」と気になる事
 があります。昔は、「なまず」
 もいたんだ。と聞いた事があ
 ったので、もしかするとあれ

は大きな「な
 まず」だった
 のかもしれま
 せん。
 またある時
 は、北川では
 「うなぎ」が
 捕れるらしい。ということ
 で、
 こちらは釣りではありませんが、
 手づかみで魚を捕ったりしま
 して、私は全然捕まえられま
 せんでしたが、上級生は「こ
 ういう所に魚が寝ているん
 だ。」と言つて、川の端にあ
 る暗い茂みの下や、敷石の間
 に手をいれて魚を捕まえてい
 ました。それを見て「上級生
 になるとこういう事も出来る
 ようになるんだ。」と尊敬の
 眼差しでみておりましたが、
 この年になつても、ヘビや何
 かでてきそうて出来そうにあ
 りません。
 その後その辺にあるまきを
 集めて焼いて食べましたが、
 あの魚は食べられる魚かどう
 かも今となってはあやしい感
 じで小学校時代を懐かしく、
 おかしく思い出す事が出来ま
 した。



新成人からの便り

好きです 野木の里

第99回卒(平成20年)

上野木 倉谷真司

野木小学校を卒業してから
 早くも八年がたとうとしてい
 ます。大学生になり地元であ
 る福井を離れることになりま
 したが、野木小学校まで通学
 するときに見る田園風景が今
 でも思い返されます。野木小
 学校では三世代交流や田植え、
 敬老会など地域の方々と
 れ合う機会がたくさんありま
 した。
 三世代交流では、しめ縄の
 作り方を教えてもらい普段で
 はしないような貴重な経験を
 して年齢関係なく地域の人と
 の仲を深めました。また、グ
 ランドゴルフなどのスポーツ
 も一緒にして楽しんだことも
 思い出します。田植えでは、
 苗植えからしたのを覚えてい
 ます。はだしのまま田んぼの
 中に入ってクラスのみんな泥
 まみれになりながらも稲がし
 っかりと育つようと一本一
 本しっかりと無我夢中で植え
 ていました。その日家に帰る
 と疲れてすぐに寝てしまつた
 ことも覚えています。地域の
 方の協力で秋には稲がたくさ
 ん出来て稲刈りもしました。
 このような体験を実際にする
 ことによつて稲を育てるのに
 かかる時間や苦勞を知ること
 ができました。また、自分で
 植えた苗がどんどん生長して
 いき食べることができた時に
 は喜びも感じました。
 私は、野木小学校でたくさ
 んの経験をする事ができま
 した。これらの経験にふれる
 ことができたのは先生はもち
 ろん地域の方々の協力があつ
 たからです。本当に感謝して
 います。野木地区は本当にい

いところだと思っています。なぜなら、地域の方々が本当に温かくていつでも優しく接してくれるからです。例えば、下校しているときに通学路で人にすれ違ったりすると笑顔で「おかえり」と温かい挨拶をしてくれます。また、子供たちが安全に登下校できるように見守り隊を立ち上げて忙しいのにわざわざ一緒に登下校してもらいました。このようにない地域は滅多にありません。これからも、野木小学校では今まで通り三代交流などを行って現代の子供たちにも伝統的なものに触れてもらい地域の方々との仲を深めていただきたいと思います。そして、野木小学校が子供たちにとって田植えなどのなかなかできない貴重な体験ができ、快適



に学ぶことができる場所であり続けるように願っています。

児童作文

すてきな二ねんせい

一ねん つじもとひな

わたしは、学校のたいいくのべんきょうで、うまとびをならいました。さいしゅは、うまとびがむずかしかったけれど、一ねんせいのお手本を見て、じょうずだな、とおもいました。わたしもそれを見たら、うまとびができました。

それに、二ねんせいがいっつもドッジボールのことも、いっばいおしえてくれました。二ねんせいこそばにいてくれて、うれしいです。わたしが二ねんせいになったら、たいいくでもっとすごいわざをならって、らいねんの一ねんせいにおしえたいです。



大きくなったら

一ねん てらせかま

わたしは、ほいへんのときより、はしるのがはやくなりました。どうしてかというところ、ぎょうかんにマラソンれんしゅうがあつて、そのときに、あせをかいて、いっしょうけんめいはしっているから、はやくなりました。六ねんせいになったら、たけむらゆうきさんみたいに、もっとはやくなりたいです。

それに、わたしが学校にきて、一ばんなかよくなつたのは、つじもとひなさんです。なぜかというところ、ひなちゃんです。なかなかなりたいと、おもっていたからです。もっともつとなかよくなって、おとなになったら、ひなちゃんとおでかけしたいです。



学校にきてよかった

一ねん あずまりようせい

せんせいあのね、学校にきて、よかったとおもいました。なぜかというと、学校は、いろんなことをおしえてくれるところだからです。だから、ぼくは学校がすきです。

たとえば、いへこのとき、かん字をおそわりました。かん字をおそわったことで、ぼくもかん字がかけるようになりました。じぶんのなまえを、かん字でかけるんです。とてもうれしいです。

あと、カタカナもおしえてもらって、うれしかったです。なぜかというと、カタカナをしらなかつたからです。

さんすうのときには、たしざんをおしえてもらいました。

これからは、ならったことがつかえるようになりたいです。



じきつぼん

一ねん つか本たくみ

八月二十三日と二十四日に、玉きのじきつぼんをしました。

まず二十二日の四時からおじぎょうさんのじゅんびをしました。さいしょにテントをはりました。おじぎょうさんのまわりのおそなえのお金を数えました。四百円ぐらいありました。おじぎょうさんを、川であらいました。そして、おじぎょうさんがいる家も、そうぎんで中とかやねをふきました。おとなの人は、花とか水をかえていました。おじぎょうさんのよだれかけも新しいよだれかけとかえました。おじぎょうさんとかがきれいになって気もちよかったです。

二十三日は、朝早くからあつまりました。そして、

「まいっておくれ、まいっておくれ。」と大きな声で言いました。たくさんの人に、いっぱいおかしとかお金とかをそなえてもらいました。昼からぼくのおばあちゃんとかさい

ぎょうさんのおばあちゃんとかも来ました。ねんぶつをしました。

二十四日も、同じことをしました。さいごは、川にお花とかお線こうをそなえて、おくりました。いっぱいそなえてもらってうれしかったです。

毎年、じきつぼんで、ぼくたちがまいっておくれと言って、おとなの人にまいってもらうのやお金をもらうのがたのしいです。



わたしの住んでいる兼田のじきつぼん

三年 山本 滯奈

わたしの住んでいる兼田には、いろいろな行事があります。その中でも、わたしがすきなものは、地区のたつきゅう練習と、田の神まつりと、クリスマス会です。

たつきゅうがすきな理由は、お兄ちゃんと練習をしていたら、少し

強くなったからです。お兄ちゃんが中学校に行って、たつきゅう部に入ったので、たつきゅう部を買ってもらいました。事む所に台がおいであるので、よくお兄ちゃんといっしょに練習しています。やるたびにちょっとずつ上手になっているのでうれしいです。

田の神まつりは一週間前からみこしをみがいて、二日間、先に紙がついた竹をもって、一けん、一けん回って、お金をそなえてもらいます。田の神まつりは回ったあとに、お金がもらえるし、田の神まつりが終わってから遊ぶのが楽しいです。

クリスマス会は、兼田の公民館で小学生とその親が集まります。最初にみんなで、かざりつけを作ります。おとなの人が、部屋のかざりつけをします。その後、風ごはんを食べます。そして、ビンゴをします。おいしいものを食べられて、けい品がもらえるので楽しみです。

田の神まつりも、クリスマス会も、お父さんが子どもの時もあつたので、

ずっと昔からついでにしているの、
すごいなあと思いました。



わたしのしょう来のゆめ

四年 大橋 花蓮

わたしのしょう来のゆめは、花屋
さんです。なぜ花屋さんになりたい
かというと、花が好きだし、お客
さんに花を買ってもらって喜ぶ顔
が見たいからです。

わたしの家には、毎年チューリ
ップがさいっていました。でも、今
年はチューリップがさきませんで
した。死んだおばあちゃんが大切
に育てていたのに、さかなかった

のでとても残念でした。だから、
さかなかった理由やどうしたら球
根が大きくなるかを調べました。
そうすると、知らないことがたく
さんありました。

チューリップだけでなく他の花
のことも知らないことがたくさん
あるので、図かんで調べたり人に
聞いたりして花のことをもっとよ
く知りたいと思います。それと、
花には花言葉がたくさんあります。
花言葉を覚えてみんなに知っても
らいたいです。

花屋さんになるには、花の名前や
種類、性質など、たくさんのこと
を知っていないといけません。季節
によってさく花がちがうので、季節
ごとにさく花を覚えたり、一年中
さく花を覚えたりしたいです。

しょう来わたしが花屋さんにな
ったら、たくさんの人にお店に来
てもらって、花をたくさん買って
もらいたい
です。そして、
花を買った
人にももら
った人にも、



笑顔で喜んでもらいたいと思います。
まだまだ小さいゆめだけど、ゆめに
向かってがんばりたいと思います。

米作りの学習を終えて

五年 植野 優波

四年生から始めて、今年は二回目
の田植えでした。そのため、ある
程度やり方は分かっていたけど、
土に足が取られてこけそうになっ
たり、土がかかったりもしました。
はだして田んぼに入ったので、土の
感覚も分かったけど、底の方に石
があつたので痛かったです。老人会
の方たちにも色々教えてもらいま
した。すごく分かりやすく教えて
下さったので、上手にすることが
できました。線が交ったところに
苗を植えました。その苗をこけそう
になったときにふみそうになつた
りもしました。でも上手に苗植え
をすることができたので良かった
です。

稲の観察にも行きました。観察に
行くとびに稲は生長していました。

大きさを見ても一気に大きくなって
いたのが分かりました。秋になる
につれて稲は黄色く、実ができて
いきました。そして、稲刈りの季節
になりました。

稲刈りも去年やったので、二回目
でした。でも、今年は稲刈りの前
に雨がふつたので土がどろどろで
した。それで、わたしもこけてし
まいました。みんなどろどろにな
って帰ってきました。わたしは稲を
刈るのがおそかったけど、一緒に
やっていた友達が二人とも早かつた
のでおいてかれてしまいました。
土がどろどろだったので足がま
ったりもしました。でも、老人会
の方が「刈つた稲の上を歩くとい
いこと」を教えてくれました。す
ると、足がしずまずに歩くことが
できました。刈つた稲を結ぶやり方
も分からなかったけど老人会の方
や友達が優しく教えてくれました。
そのおかげで上手に結ぶことがで
きました。

その後、四、五年生で作ったお米
を使っておにぎりにして食べました。
炊きたてのご飯だったのですごく

熱かったです。みんなでおにぎりを作って食べたのは初めてだったし、自分達で作ったお米でおにぎりを作って食べたのですごく美味しかったです。今、学校で食べているお米は四、五年生で作りました。ご飯を残してはいけないということがよく分かりました。一生懸命作ったお米を残されると、悲しいです。ご飯は残さないようにしたいです。

そして、今回田植えや稲刈りができたのは老人会の方や、水管理をしてもらった清水いさおさんのおかげです。そのおかげで、わたしたちは田植えも稲刈りもする事ができました。来年は、できないけどこの経験をしっかりと覚えておきたいです。



感動・笑顔・達成感いっぱい体育大会

六年 竹村 藍里

五月三十一日に体育大会がありました。直前まで天気が心配だったけれど、実施できて本当によかったです。

私の中に、この体育大会を通して生まれた名言があります。それは、「辛いことや苦しいことを乗り越え

た先には、必ず笑顔や感動がある」です。約一か月前から、私達六年生が大会のテーマや応援の内容や全員リレーの走順などを考えてきました。それらは、六年生になって一番大変なことだと感じました。

特に応援は一から全部六年生がアイデアを出し合って考えたので大変でした。アイデアが固まって内容が完成して喜ぶと、次は五年生との練習や打ち合わせ、そして全体での練習と、また大変なことがあります。下級生は書き中の練習で、声を出してくれなかったり座りこんでしまったり、六年生が言うことを聞いてくれなかったり

しました。私の思っていた以上に大変なことでした。でも、どんどん練習していくうちに声も出てきて、スムーズに動けるようになり、当日には今までの中で一番いい応援ができました。だから、感動と達成感でいっぱいになりました。これは、つらいことを乗り越えられたからあったんだと思います。



表現の「ライオンキング」でも大変なことはいっぱいありました。練習では、六・三・一のピラミッドでこわかったり、背中が痛かったりしました。でも、当日は、家族や地域の方をびっくりさせることができ、グラウンド中が「シーン」となる表現の発表になりました。素敵な発表ができ、最後は、感動・笑顔・達成感でいっぱいになりました。

私はこの体育大会で学んだことがあります。それは、つらいことから逃げてはいけないということ

です。練習中もつらくて逃げたいという気持ちになったけれど、あきらめずに最後までがんばったら感動や笑顔がたくさんあったからです。そこから、さっきの名言も生まれました。

応援優勝はとれなかったけれど、自分の中では「青組優勝！」の気持ちです。小学校最後の体育大会が大会テーマ「笑顔満開！残そうハッピーメモリー」の通り、笑顔いっぱい、思い出さずにはいなくなってもうれしかったです。来年は、今の五年生に下級生をリードしてがんばってほしいです。悩んだり、つらかったりしたときに、手助けをしてくださり、励まして下さった先生方にも感謝しています。



今学校では...



いつも笑顔いっぱい1年生。教室の中には、いつも相手を思いやる優しい言葉が飛び交っています。写真は、服部前校長先生の畑で収穫させていただいたさつま芋を使って、焼きいもを作ったときのもので、季節を感じ、いろいろな体験を通して、みんなで学ぶことのおもしろさを実感しています。

1年

担任 岩本真紀

今学校では...



元気いっぱい2年生。今、かけ算九九の練習をがんばっています。今年は、裏のハウスでメロンやスイカをたくさん収穫し、畑にはさつまいもを植えて収穫しました。学校の周りで落ち葉をたくさん集め、焼き芋を作って食べました。オレンジ色で甘くておいしいさつまいもに感激して食べています。

2年

担任 松岡祝子

今学校では...



学級目標「みんなでチャレンジ！わくわく3年生！」のもと、勉強にも運動にも意欲的に取り組める子どもたちです。たまにケンカもありますが、すぐにけろっと忘れて仲直り！チャキチャキ女子に押され気味のマイペース男子（+担任）ですが、みんなの力が集まるとすごい力を発揮するクラスです。

3年

担任 森川将治
ひまわり班 宮川雅代

今学校では...



男女仲良く、いつもパワフルな4年生です。今年は、田植え&稲刈り、メロンやキュウリの栽培に初挑戦。写真は、今育てている白菜を囲んでの1枚です。ずっしりと重くなった白菜に、みんな大喜びしています。新しい学習や活動に取り組むことが大好きで、目を輝かせながらどんどん意欲的にチャレンジしています。

4年

担任 宮本香奈子

今 学校では…



5年生の学級目標は「いつも笑顔で元気です」です。高学年になって学習はより難しくなり、各種行事にも多く参加するようになって、日々忙しく過ごしています。そんな中でも、いつも笑顔でニコニコとがんばっている11人。素晴らしい6年生を見習い、野木小学校のリーダーとしてしっかりやれるように、日々がんばっています！

5年

担任 松口一巳

今 学校では…



最高学年として、野木小のリーダーをしっかりと果たしている6年生です。4月から、縦割り遠足、体育大会、陸上記録会、修学旅行、町の音楽会…と行事を乗り越えるごとに大きな成長を見せてくれました。イベントごとが大好きな11名なので、行事では、期待以上のアイデアと行動力、努力でパワーを発揮し、一致団結してきました。このまま卒業まで駆け抜けます!!

6年

担任 河原奈津

編集後記

昨年度の理事会で、今年度より寄稿者を各年代から集落ごとのローテーションで選出していただくことに決まりました。お陰様をもちまして今年度の寄稿者の方には快くお引き受け下さり、無事会報二十六号が完成しました。ありがとうございます。他の会員の皆様も今後、寄稿のお願いがありましたらお引き受け下さるようお願いいたします。さて、倉谷会長の挨拶にもありますように少子化の波は若狭町にも押し寄せ、どの学校も軒並み児童数が減少しています。本校は一年生が二十三名と多いのですが、他の学年はぎりぎり二桁で今後数年間は同じように推移していきます。しかしながら人数は少ないものの、児童は学習に運動に一生懸命取り組み素晴らしい成果をあげています。その様子は体育大会や陸上記録会、学習発表会や音楽会などで地域の皆様のお目にとまっていることと思います。今後とも地域の宝である子どもたちが光り輝く野木小学校であるために、教職員、保護者、同窓会員が手を取り合って、児童の教育や環境整備に力を入れていきたいと思えます。会員の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

